

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	873200422		
法人名	聖北会 有限会社 敬七商事		
事業所名	グループホームすずらんの里		
所在地	笠間市土師向原1283-252 (電話) 0299-45-8821		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年6月27日	評価確定日	平成19年12月21日

【情報提供票より】(平成19年6月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年6月27日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤22人, 非常勤	人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,140 円			

(4) 利用者の概要(6月4日現在)

利用者人数	26名	男性	4名	女性	22名
要介護1	8	要介護2	13		
要介護3	4	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 83.8歳	最低	65歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	立川病院・はぎのや歯科・笠間眼科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

関連の法人が特別養護老人ホーム、軽費老人ホームなどの施設、病院、通所介護事業所、短期入所生活介護事業所などを運営しており、地域に根付く介護事業を展開しようと、積極的に活動している。
ホームの理念は「自然豊かな環境でゆったり、のんびりとした家庭的な雰囲気的生活を提供する」の独自の理念を作成し、判り易い。
職員は利用者一人ひとりの立場にたってきめ細かで温かみのあるケアサービスを行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 理念を利用者や家族、訪問者にわかり易く掲示するなど、周知を図るために改善している。 また、広報誌の発行が課題となっているが、利用者の秘密を保持するため作成していない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者及び職員は評価の意義を理解し、結果をホーム内で公開するとともに、課題の改善に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の開催準備をしているが、委員の日程が合わず、開催するには至っていないので、早期に開催するよう日程調整するとともに、意見を運営に活かす取り組みを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情の相談窓口や担当者、第三者委員を設置するとともに、利用の仕方等の説明資料を作成し、家族に説明している。 また、家族が面会に訪れた時に話を聞いている。 意見や要望に対する対応は、日々の申し送りや管理者との話し合いで検討している。 家族から意見や要望を開けるよう家族が参加できるイベントを企画するなど、交流や意見等を開く場を設けることを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 婦人会などの地域ボランティアを積極的に受け入れるとともに、地域の夏祭りに参加するなど、地域の方々と交流する機会を設けている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「自然豊かな環境でゆったり、のんびりとした家庭的な雰囲気の生活を提供する」としており、玄関にわかりやすく提示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務打ち合わせ時や月一回のミーティング時に共通理解し、理念の実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	婦人会などの地域ボランティアを積極的に受け入れるとともに、地域の夏祭りに参加するなど、地域の方々と交流する機会を設けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は評価の意義を理解し、結果をホーム内で公開するとともに、課題の改善に努めている。 理念を利用者や家族、訪問者にわかりやすく掲示するなど、周知を図るために改善している。 なお、広報誌の発行が課題となっているが、職員間で検討し、利用者の秘密を保持するため作成していない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催準備をしているが、委員の日程調整が合わず、開催するには至っていない。	○	運営推進会議はホームにとって委員の方々から、ニーズや多様な意見を聴く場となるので、早期に開催するよう日程調整するとともに、意見を運営に活かす取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定調査や利用手続きの際に、市の意向やホームの状況等を伝え合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	病院の受診、健康状態が変化した時等、内容に応じて文書や電話などで報告している。 金銭面の報告は月一回郵送や面会時に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の相談窓口や担当者、第三者委員を設置するとともに、利用の仕方等の説明資料を作成し、家族に説明している。 また、家族が面会に訪れた時に話を聞いている。 意見や要望に対する対応は、日々の申し送りや管理者との話し合いで検討している。	○	家族が参加できるイベントを企画するなど、交流や意見等を聞く場を設けることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動を最小限に止め、馴染みの職員による介助を継続できるよう配慮している。 また、職員が働きやすい職場環境になるよう努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一つの課題を職員間で話し合っているが、業務多忙により職員の段階に応じた研修等に取り組むまでには至っていない。	○	ホームの更なるサービス向上に向け、職員に外部研修を受講できる機会を確保するとともに、困難な場合は内部研修を企画するなどの体制づくりを期待する。 また、研修受講者が報告書の作成や伝達研修を行うなどの機会を設けることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	設置法人が行う病院や特別養護老人ホームなどの職員と交流している。 他のグループホームとの交流も計画している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には家族、関係機関の協力を得ながら、見学や体験、茶話会などでホームの雰囲気に馴染めるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のADL（日常生活動作）を理解し、本人ができることは自分で行えるよう支援している。 また、共に過ごす時間を多くとり、コミュニケーションを図るなど、利用者との関係を深めるよう取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの行動や言動を注意深く観察するとともに、訴えがある時はゆっくり話しを聞くなど、思いや希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向や家族などと連絡をとりながら介護計画を作成しているが、利用者一人ひとりに応じた対応をするまでには至っていない。	○	介護計画は利用者本位であるとともに、家族の意見や要望等を反映して作成することを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、変化が生じた場合は新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を取得し、利用者が安心して医療を受けることができる環境を整えている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を図るとともに、利用者の症状に応じた専門医に受診するなど、本人・家族が安心できるよう医療支援に取り組んでいる。 家族には受診の結果などを連絡し、同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態が重度化した場合は、医師や家族と話し合うとともに、医療機関と連携を密にとり、対応している。 終末期の対応について、本人や家族の意向を重視するとともに、看取りの同意書を取り交わしているが、職員全員で方針を共有するまでには至っていない。	○	重度化や終末期に対する職員の心構えを強く持てるよう、全員で方針を共有するとともに、対応マニュアル等を作成することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシー保護について、毎月のミーティング時に職員に周知徹底している。 利用者がその人らしく過ごせるよう支援するとともに、個人情報の取り扱いに注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にするとともに、利用者のできる事を積極的に取り組んでもらえるよう働きかけている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや食事の準備、片づけなど利用者が日常的に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりが好きな時間に入浴できるよう希望を聞いているが、全ユニットで実施するまでは至っていない。	○	入浴に関するホームの方針を本人及び家族に充分説明し、双方に無理のない入浴支援に取り組むことが望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望にあわせて農作業や掃除、洗濯物たたみ、散歩など役割や楽しみごとの場面づくりを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近所への散歩や買い物に出かけるなど、外出する機会を増やしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者はミーティングなどの機会に、鍵を掛けることの弊害について話すとともに、鍵をかけないケアを実践している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	警察署、消防署だけでなく万一の際には地域の方々の協力を得られるよう働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量をケース記録に記載している。 水分はおやつなどと一緒に提供し、体調を整えるよう努めている。 歯で噛めない利用者には小さく切って食べやすくしたり、苦手なものは代わりの物を用意するなどしている。	○	栄養バランス、メニュー、水分の摂取量などを栄養士等の協力を得て確認することを提案する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は対面式のカウンターとなっており、職員はリビングで過ごす利用者を見守っている。 リビングには鉢植えを置いたりテーブルには季節の花を飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者の使い慣れた家具などを持ち込んでいる。 また、外出時などに本人が気に入ったものを購入してもらうなど、居心地よく過ごせるよう楽しみながら住環境を整えている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。